

特集
Special

レポート
Report

インタビュー
Interview

エッセイ
Essay

レクチャー
Lecture

オピニオン
Opinion

TOP > レクチャー > 山下塾第8弾 大災害と危機管理 > 山下塾第8弾 大災害と危機管理 第4回講座 共助及び防災における国民の役割

山下塾第8弾 大災害と危機管理 (大災害から自己と組織を守る！)

山下 輝男

第4回講座 共助及び防災における国民の役割

初めに

第4回講座では、共助及び防災における国民の役割について考えてみよう。地域におけるコミュニティ力が試される共助の重要性は云うまでもない。特に発災直後における人命救助段階における地域力が、ポイントだ。また、避難行動における災害弱者対応においても同じだ。

VG1 共助全般

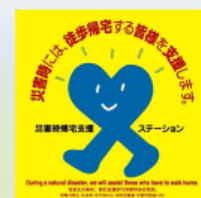
共助について説明するとすれば、スライドに示す内容を述べねば全体を俯瞰したとは言えない。3項以下5項までは他でも述べているので、本講座では割愛して意義重要性及び具体的事項を述べるのみに止めたい。



共助について

- 1 共助の意義・重要性等
- 2 共助の具体的事項
- 3 自主防災組織
(役割、課題、機能した例、課題解決の方向)
- 4 災害時要援護者支援
- 5 ボランティア

割愛



VG2 共助全般

隣近所の交わり接触が希薄になった社会は災害対応力が弱いとみられている。隣のお宅がどういう状況なのかをよく承知している濃密な近隣関係を嫌う向きもあるが、この近所力がいざという場合に力を発揮する。

御近所力には多々ある。最近では、企業もその一員としても活動する場合がある。



共 助 全 般

○ 昔: 向う3軒両隣→今: 隣は何する人ぞ

○ 遠くの親戚より、近くの他人

共助: 「自分達の街は、自分達で守る」

自主防災組織がその中核ではあるものの

ボランティア、町内会、民間企業、公共的団体、
その他のコミュニティ、
危機管理経験者団体等々に期待

災害救援を目的とするNPO

(* 印: NPO国民保護協力会等 後述)



29

VG3 共助の重要性

共助の重要性として、阪神淡路大震災時の人命救助についてみてみたい。データのとり方は種々あるが、発災直後における人命救助においては近隣住民の果たした役割が圧倒的であった。救援機関が到着するにはそれなりの時間がかかり、それまでの間手を拱いている訳にもいかない。

避難所の管理運営支援にしても、見ず知らずの者に面倒を見て貰うよりも、知り合いの方が良いに決まっている。



共助の重要性について

阪神淡路大震災の事例

- ① 神戸市の要救助者のうち救出割合
約**85%**を一般住民が、約5%を消防団
- ② 自力脱出困難者約35,000人のうち
77%を近隣住民が救出
- ③ 神戸市東灘区の人命救助救出者割合
自主防災組織等:**72%**、自衛隊14%等
- ④ 消防団の救出した人々の生存率:
88%、(消防隊の場合:73%)



30

VG4 共助を担う組織主体

防災における共助を目的とした互助組織が自主防災組織であり、共助の主体であるのは事実だ。町内会もあれば、ボランティアも、民間企業ですら共助の一翼を担い、公共団体も同様である。最近では災害救援を目的とするNPO等も存在し、共助意識の高まりを感じる。喜ばしい限りである。



共助を担う組織等

- ①自主防災組織がその中核ではあるものの
(＊自衛消防隊≠自主防災組織)
- ②ボランティア等の個人、町内会・自治会
- ③民間企業、公的団体(企業と自治体と支援協定)
- ④その他のコミュニティ
- ⑤災害救援を目的とするNPO
- ⑥危機管理経験者団体又は個人等々



31

V G 5 共助の具体的事項

公的機関では、能力上対応できないか、きめ細かな対処が困難であるような、かといって個人ではとてもじゃないが対処し得ないような分野やジャンルで共助力が如何なく発揮されるようだ。その一例を示せば、スライドの通りである。出来ることを出来る範囲で力を出し合えば、思いのほか大きな力となる。

特に災害弱者対応における共助力の発揮に期待する。警報伝達、避難誘導そして避難所での諸活動は肝要だ。

④項については、人命救助のために駆けつけた救援機関に対する情報提供を特に訴えたい。崩壊した家屋内に不明者がいる可能性があるのか、在るとすればどの部屋にいるのか等々の情報を提供して貰えれば、迅速な救助活動ができる可能性がある。

或いは誰も居ないと云えるのであれば、無用な搜索をする必要なく、効率的な救助活動に益する。



共助の具体的事項

- ①警報伝達(周知徹底、特に災害弱者対応)
- ②避難・誘導(集団避難、＊自力避難困難者支援)
- ③避難所の開設・運営(管理運営の主役)
- ④救援
搜索救助、物流管理、救急、消火
- ⑤被災状況の報告・通報
- ⑥その他

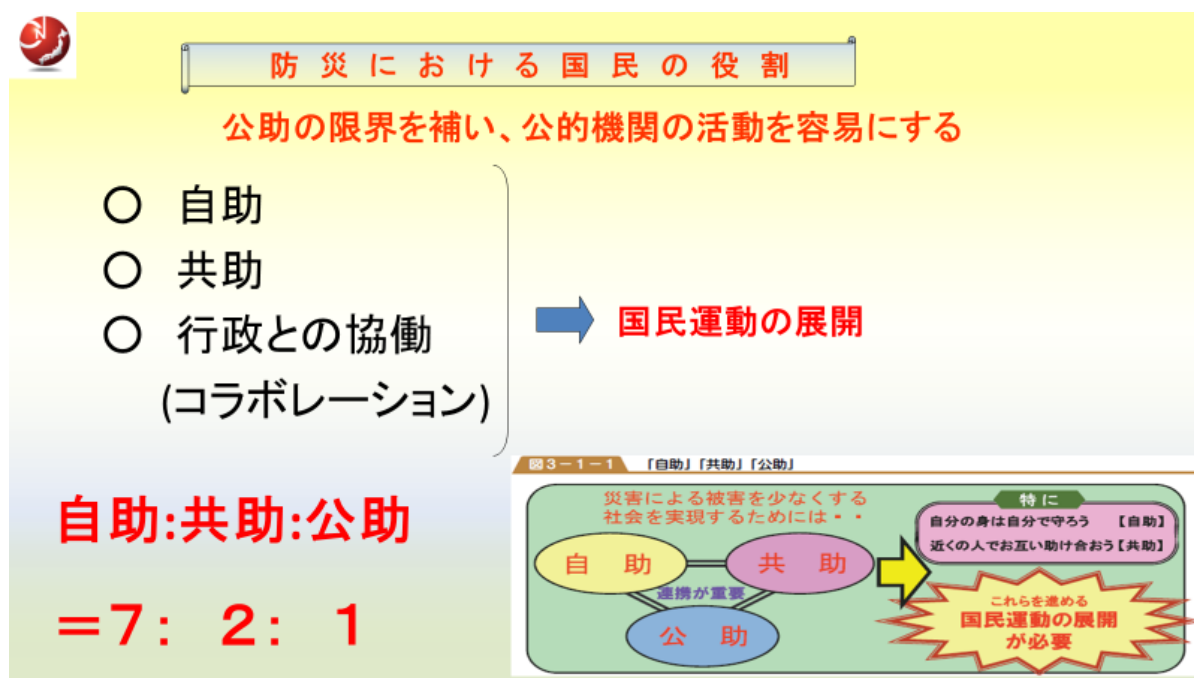


32

V G 6 防災における国民の役割

前回講座及び今回講座で自助と共助について述べた。公的機関に対する所要の支援・協力も重要な役割である。自助、共助、そして公的機関との協働を通じて防災・減災を図り、事態の早期収拾を期す必要がある。このような国民運動が展開されねばならない。

自助：共助：公助=7：2：1とよく言われるが、何れにしても自助や共助が重要な事を強調していると理解すべきだろう。個人や地域が為すべき事項はまだまだある筈だし、これで良しということはないだろう。自助や共助が適切に為されることにより、公的機関による諸活動が効果的・効率的そして容易になる。



自助や共助の重要性を理解頂いたものと思う。

次回講座では、水害、河川氾濫等を取り上げたい。最近は、異常気象新時代と云われるぐらいに特異な災害が頻発している。

キーワード▶ 危機管理・ 大災害・ 大災害と危機管理・ 山下塾・ 山下塾第7弾・ 山下塾第8弾

いいね！ 13

INDEXへ戻る

次の記事 [山下塾第8弾 大災害と危機管理 第5回講座 河川氾濫対応](#)

前の記事 [山下塾第8弾 大災害と危機管理 第3回講座 防災の基本、自助、災害時心理特性等](#)

[ページの先頭へ](#)

[関連サイト](#)

[防衛省](#)

[統合幕僚監部](#)

[陸上自衛隊](#)

[海上自衛隊](#)

[航空自衛隊](#)